資料２

平成 29 年 5 月 26 日計画部会における委員意見等への対応について

委員意見等	最終案における対応内容
＜人口減少等に対応した都市計画の見直しに関する表現について＞ ・　綾部市や舞鶴市の事例を踏まえ、計画(案)で「人口減少に対応するためには、人口増加、都市の拡大を前提とした既存の都市計画の見直しなど、地域の状況に応じた地域主体のまちづくりを進めていく必要がある。」と記載することとしているが、この表現では、今後全ての都市が縮小していくように捉えられる。どの市も、人口増加を狙いながら効率的な都市運営を考えた中でそれぞれ取り組んでいるので、表現は気をつけた方がよい。(谷口会長) ・　「人口増加、都市の拡大を前提とした既存の都市計画の見直し」という表現が直截的すぎるので、「都市機能の集約を図ることを通して･･･」や「都市構造の再編」としたらどうか。(村橋委員) ・　綾部市と舞鶴市は一見すると正反対のことをしているようにみえる。人口増加や地域活性化という目指す方向は同じ中で、やり方は色々あるというような書きぶりにしてはどうか。(辻本委員)	○　(本文P1～)　以下のとおり修正 ア　急激な人口減少と超高齢化の進展 府内総人口は平成17年(2005年)から自然減となっており、(略)。 その結果、国土管理水準の低下や･･･(略)･･･高度利用を一層推進していくことが必要である。 また、人口減少、高齢化などの社会状況の変化に対応し、~~に対応するためには、人口増加、都市の拡大を前提とした既存の都市計画の見直しなど、~~地域の状況に応じた都市構造の再編など、地域主体のまちづくりを進めていく必要がある。
＜森の京都について＞ ・　海の京都やお茶の京都に比べ、森の京都は盛り上がりに欠ける。「地域別の土地利用の基本方向」における森の京都に関する部分で、こうした取組を盛り上げるような記述としてほしい。(辻本委員)	○(本文 P. 6～)「２　地域別の土地利用の基本方向」を次のとおり修正 地域別の土地利用に当たっては、“もうひとつの京都”「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」構想等に基づくとともに、隣接地域との関係性も考慮しながら、各地域の特性に応じた均衡ある発展をめざし地域の自然的、社会的、経済的及び文化的特性を活かした土地利用を図るものとする。 ○　(本文 P7～)　以下のとおり修正 (3)　南丹(京都丹波)地域 南丹(京都丹波)地域では、「森の京都」構想に基づき、森の恵みを活かした食や伝統文化、産業など森に包まれた暮らし方である「森の京都スタイル」の発信等により、定住・半定住を促進するとともに、当地域が持つ産業集積、地域資源、立地条件等の多様な強みを活かし、ものづくり産業の振興、京都丹波立地企業の経営環境の充実を図る。

平成 29 年 5 月 26 日計画部会における委員意見等への対応について

＜山城地域について＞ 「第１　土地利用の基本方針－２　地域別の土地利用の基本方向－(5)山城地域」について、地域の多様性を考慮し、それを反映した記述とする。	○　（本文P.8～）　以下のとおり修正 (5)　山城地域 山城地域においては、「お茶の京都」構想に基づき当地域が持つ産業集積、地域資源、立地条件等を活かした地域振興を図る。 乙訓地域（向日市・長岡京市・大山崎町）は、府域の東西南北を結ぶ新たな交通の要衝地であり、京都の西のゲートウェイとして、竹をはじめとする豊かな地域資源を活用し、交流や産業の集積に資する計画的な土地利用を進める。 山城中部地域の宇治市・八幡市・久御山町では、京都第二外環状道路(にそと)、新名神高速道路等の整備により全国でも有数の交通至便な地域となることから、産業の集積に資する計画的な土地利用を進めるとともに、戦略的な産業・文化振興及び交流拡大を図る。 山城中部地域の城陽市・井手町・宇治田原町では、新名神高速道路等の交通基盤整備による商業・工業機能や物流機能を利用したまちづくりを進めるとともに、大消費地を控えた地域ならではの条件を活かした都市近郊型農業を展開していく。 相楽東部地域（笠置町・和束町・南山城村）では、交通基盤の整備により「人・もの」の流れをより効果的に呼び込む中で、お茶の魅力を伝える主要拠点をめぐるサイクリングコースの設定等により周遊性の強化を行うとともに、豊富な歴史的文化遺産や茶畑に代表される美しい景観等の地域資源を活かしたまちづくりを進めるとともに社寺林等の歴史的自然環境や、継続的な管理により維持されてきた里山等の二次的な自然環境など、多様な形態の自然環境の保全・再生・活用を進める。 学研都市地域（京田辺市・木津川市・精華町）では、学術研究機関等の集積を活かした産学公の連携を進めるとともに、住宅開発や交通網整備等により企業立地等を推進していく。 ~~山城地域では、京都第二外環状道路(にそと)、新名神高速道路等の整備による交通の利便性を活かした商業・工業機能や国際的な物流機能等の産業の集積に資する計画的な土地利用や関西文化学術研究都市をはじめとする学術研究機関等の集積を活かした産学公の連携を進める。併せて「お茶の京都」構想を踏まえ、戦略的な産業・文化振興及び交流拡大を図る。~~ ~~また、全国的に有名な宇治茶や品質の高いタケノコのほか、ナスやトマトなどの野菜が多く生産されており、宇治茶や地域ブランド「京やましろ新鮮野菜」等によって新たなビジネスを生み出せる都市近郊型農業の展開を図る。~~ ~~さらに、本地域は社寺林等の歴史的自然環境や、継続的な管理により維持されてきた竹林や里山等の二次的な自然環境が広がるほか、東側は琵琶湖国定公園に指定されるなど、多様な形態の自然環境に恵まれており、引き続き自然環境の保全・再生・活用を進める。~~ ○(P.7)　表の山城地域の欄に細区分を設ける